

2013年10月18日

企業会計基準委員会と米国財務会計基準審議会の代表者による定期会合の開催

企業会計基準委員会
米国財務会計基準審議会

企業会計基準委員会（ASBJ）と米国財務会計基準審議会（FASB）の代表者は、2013年10月15日と16日に、東京で会合を開催いたしました。この会合は、ASBJとFASBが年に2回、定期的に行っているもので、今回で第15回目となりました。

ASBJとFASBは、高品質なグローバルな会計基準の開発のために、これまでも緊密な連携を図っており、本会議においては、お互いの活動の最新状況を確認するとともに、各国会計基準設定主体等の関係者間の継続的な協調関係のあり方について意見交換をいたしました。

ASBJとFASBは、国際会計基準審議会（IASB）が現在審議を行っている「概念フレームワーク」及び「マクロヘッジ会計」について議論を行ったほか、FASBとIASBが現在共同して審議を行っている「リース」及び「保険契約」についても議論いたしました。さらに、ASBJとFASBは、いくつかのリサーチ・テーマについて議論いたしました。

ASBJとFASBは、引き続き、直面する課題や今後想定される懸案事項について意見交換していくことに同意しました。なお、次回の会合は2014年上期にノーウォークで開催する予定です。

西川郁生ASBJ委員長は次のように述べています。

「新たに議長に就任されたラッセル・ゴールデンFASB議長を東京へ迎えて、定期会合を開催できたことを大変喜ばしく思っている。ラッセル・ゴールデン議長のリーダーシップの下、国際的な会計基準の改善のために、FASBが主要な論点に取り組んでいる中で、それらの論点についてFASBの代表者と意見交換を行うことができ、今回の定期協議における議論も極めて有意義であった。」

ラッセル・ゴールデンFASB議長は次のように述べています。

「我々、FASBは、ASBJとの定期的な議論が、米国会計基準を改善するのに資するだけでなく、より比較可能で高品質なグローバルな会計基準の開発にも役立つものであると強く考えている。

日本及び世界中の他の主要な資本市場における会計基準設定主体との、より多くの協議及び協力をを行うことを楽しみにしている。」

企業会計基準委員会(ASBJ)について

ASBJは、2001年7月に民間部門の機関として設立された。ASBJが開発した会計基準は、金融庁により一般に公正妥当と認められた企業会計の基準として認められることとなる。ASBJは、企業が活動している環境を適切に反映した会計基準及び適用指針を開発している。ASBJは、海外の会計基準設定主体とコミュニケーションを取り、グローバルな会計基準の開発に貢献している。ASBJに関する詳細な情報は、ホームページ<http://www.asb.or.jp/>をご参照いただきたい。

米国財務会計基準審議会(FASB)について

FASBは、1973年以来財務会計及び財務報告基準を設定するための民間部門の機関として指定されている。それらの基準は、財務報告書の作成を規定し、証券取引委員会及び米国公認会計士協会により権威のあるものとして正式に認識されている。投資家、債権者、監査人及びその他の人々は、信頼性、透明性、比較可能性のある財務情報を必要とするため、このような基準は、経済の効率的機能にとって不可欠である。FASBに関する詳細な情報は、ホームページwww.fasb.orgをご参照いただきたい。